

2018年度

学校評価（自己評価）

目標	
	子どもが集団の中で、遊びを楽しみ、育ち合う。
計画	
	○幼稚園生活の中で、子ども達一人ひとりの“個”の存在を大切にしながら、物事に向き合う力や、集団の中の一人としての意識を育てる。 ○生活する基礎を培い、生きる力を養う。 ○今ある環境を活かし、親育てをしながら、子どもの心を育む。

<今年度の取り組み>

- ・2018年度も、昨年度同様に、幼稚園の考えと保護者の子どもへの関わりに大きな差があり、思うように目標が達成できていなかったため、保護者への働きかけを再度、丁寧に行うことにした。より具体的な対策としては、「クラスだより」「グレース通信」「保護者会」「クラス懇談会」の内容を見直し、保護者に啓蒙していく努力をしていきました。建て替えに関して「BOG」を発行し工事の進捗状況を伝えていきました。
- ・保育園から進級してきた家庭には、幼稚園で大切にしている事柄を十分に理解し、意識していただけるよう保護者との連携をより深めていきました。また、保護者同士の関係がよりよくなるように、また、子ども達の日常生活を身近に感じてもらえるように「親子で遊ぼう（各学年1回ずつ）」を設けたりしました。
- ・教師間の担務に任せ過ぎず、職員全員が環境に再度注目し、より保育の中に取り入れられるようにすることを目標としました。
- ・子どもの体づくりでは、YMCAの体育指導員と教師が週1回、振り返りの時間をもち、より連携したこと。そして、体育指導で経験したことを、保育の中でも取り入れたことで、自然と遊びの中に定着し、子どもの身のこなしがよくなってきていること。の2点が挙げられます。
- ・栄養士が、季節の野菜や行事食・栄養価を常に考え、子どもの食事が充実してきていることで、保護者からもより高い評価をいただいています。
- ・建て替え工事が本格的になり、子どもの生活の保障、安心・安全に過ごせることを一番に考えていきました。今までの内容にこだわらず、いろいろな工夫をしながらより楽しい保育を目指していきました。運動面の保障として畑をミニ・グラウンドとして開放したり、近所の公園（東公園やメゾン公園）へ行ったり、バスで大きな公園へ行くことも増やしたり、体育遊びを園外で行うこともありました。また、工事の様子が身近に見てもらえるよう仮囲いを透明なものにしたり、重機の写真や名前を掲示したり、棟上げ時には中に入って建設途中の園舎を観察することもできました。職人さんやガードマンさんとも仲良くなることができました。引っ越しなど子ども達でできることは一緒に行い、今しかできない貴重な体験ができました。

評価項目		
心身の健全な成長（あそび）	体を十分に動かしてあそびを楽しむことができる。	○
	好きな遊びを見つけて存分に楽しむことができる。	○
	園の職員全員で子どもを育てている。	○
	様々な活動に挑戦する中で、友達と刺激し合い達成感を味わうことができる。	○
	他学年との交流をもち、育ちに生かしている。	○
	自分に自信を持ち、友達を認めることができる	△
	思いを言葉で伝え合い、豊かな表現力を身に付けることができる。	△
	遊びを通して相手の気持ちに気づき折り合いをつけることができる。	△
	戸外での遊びを通してバランスの良いからだづくりができています。	△
	子ども達自ら遊びを工夫し、ルールや役割のある遊びを作り出す。	△
じっくりと遊びの時間をもっている。	○	
教育環境（自然）	園内の自然（樹木、果実、花、動物、虫、畑の野菜）を通して季節を感じるができる。	○
	いきものに接することで“命の大切さ”を知ることができる。	○
	畑の野菜を育てることで生長、収穫、食べ物のありがたみを知る。	○
	夏期等、あずかりの体制が整えられている。	○
	木の実や落ち葉などの自然物を使って遊ぶことができる。	○
	実際の自然に触れ、五感を使って感じてみる。	○
	教師自身が園庭の木々や草花を知り、子どもの興味関心の動機づけができる	△
	起伏のある広大な敷地で遊ぶことができる	△
植物や動物を育て、その成長に興味関心をもつ。	○	
保健衛生（食育）	季節の伝統料理を頂く。	○
	食に対する意欲をもち、マナーを身につける。	△
	旬の食材や自園で採れた野菜を味わえる。	○
	アレルギー対応ができています。	○
	専任の保健師がおり、怪我の対応（簡易処置）を適切に行える。	○
	健康に過ごすための季節ごとの注意点を看護師や教師から教えてもらう。	○
	食育を保護者にも考えていけるように栄養士との相談会を企画し家庭での食育に園が力を発揮する。	○
保護者との連携	家庭訪問を行い、子どもが育つ環境を理解している。	○
	子育て相談、カウンセリングなど、保護者を支える体制が整えられている。	○
	ホームページで日々の子どもの姿を知ってもらう。	○
	保護者に、より保育のねらいなどを理解してもらう機会（参観や講座、懇談、グレース会、行事など）をもつ。	○
	クラスや個人の様子などを、電話やお便りで保護者に丁寧に伝えられるよう努めている。	○
	活動の過程を見てもらう機会をもつ。	○
就学準備	グループ活動、リーダー活動を通して責任をもって行動することに気づく。	○
	文字、数字に興味をもつために、生活の中に工夫して取り入れていく。	○
	一つの目標にみんなで取り組み、達成感、満足感を味わう。	○
	一人ひとりの違いを認め共に育つようすすめていく。	○
	基本的な生活習慣を身に付ける。	○
	規範意識を身に付ける。	△
その他	卒園生へも園へ来ることのできる機会を与え、その後のつながりをもっていく。	○
	職員としての品位を保つよう心がけている。	△
	個々の教師としての向上心、同僚との意識の高め合いが感じられる。	△
	地域との関わりをもち、地域とも連携し、子育てを行っていく。	△

<今後の課題>

- ・保護者を取り巻く環境を理解し、保護者の思いを十分に受け止めながら、一緒に育てていく（家庭でも同じ関わりをもつていただく）という姿勢をしっかりと伝える。
- ・1～5歳児の全体的な保育計画を立てつながりのある保育を実践できるようにする。
- ・こども園となったことで地域に開かれた子育て施設としての役割が重視されているため、園庭開放など子育て支援での取り組みに力を入れていかななくてはならない。
- ・キャリアパス制度が導入され、保育の質向上に向けて教師が進んで研修に参加できる体制を整えていく必要がある。
- ・係の制度を導入し一人1回、園のお手伝いをしていただき園の教育について理解していただく。